

「各教科等で目指す資質・能力」の育成のために

児童生徒と単元全体の見通しを共有し、「指導と評価の一体化」を図る！

1 単位時間の授業を支える基盤として、内容や時間のまとまりを見通しながら、単元（題材）末に「何ができるようになるか」というゴール（単元目標を達成した子どもの姿）を意識し単元構想をすることが重要です。このゴールの姿と単元の目標、単元の評価規準を踏まえ、授業における評価場面等をイメージしながら**単元全体を見通した指導と評価の計画を作成**しましょう。

※ 「本時の展開」の書き方については、中丹のまなびX（令和2年3月）、中丹のまなびXI（令和3年3月）を参照してください。

事例

中学3年 理科「化学変化と電池」
指導と評価の計画（全8時間）

「評価の観点」

「ねらい・学習活動」を踏まえて、その時間に児童生徒の学習状況を重点的に評価する観点を決めます。

「ねらい・学習活動」

単元の目標と教科書等の内容を踏まえ、1 単位時間または1 次ごとのねらいと具体的な学習活動（何を、どのように学習するのか）について児童生徒の立場から記述します。

「評価方法」

児童生徒のどの学習活動を対象として、どのような方法で評価するかを記述します。活動観察の場合は児童生徒の学習状況が把握できるように、授業のどの場面で、何をポイントとして観察するのかが明確にすることが大切です。

時	ねらい・学習活動	評価規準 【評価の観点】 〈評価方法〉
1	○硝酸銀水溶液と銅を反応させる実験を行い、結果を考察して表現する。 ・反応前後の違いを比較し、銀が析出し、銅が水溶液中に溶けることを見いだす。	◇銀樹が生成したことや、水溶液の色の変化から、銀が析出し、銅が水溶液中に溶けることを見いだして表現している。 【思考・判断・表現】 〈活動観察・記述分析〉
2	○硝酸銀水溶液と銅の反応から、銀が析出し、銅が水溶液中に溶けたことを表現する。 ・それぞれ、イオンや電子のモデルを用いて表現する。 ○銀と銅について、イオンへのなりやすさの違いを理解する。 ・銀イオンが銀原子になり、銅原子が銅イオンになる変化と関連付けて、電子の授受が行われていることやイオンへのなりやすさの違いについて知る。	◆実験の結果をもとに、反応についてイオンや電子のモデルと関連付けながら、自らの考えを表現している。 【思考・判断・表現】 〈記述分析〉 ◇銀イオンが電子を受け取って銀原子になり、銅原子が水溶液中に溶け出して銅イオンになるとともに電子を受け渡したことを、イオンや電子のモデルと関連付けながら理解している。 【知識・技能】 〈活動観察〉
3	○金属のイオンへのなりやすさの違いを調べる実験を計画する。 ・Cu、Zn、Mgのイオンについて、金属と硫酸塩水溶液を組み合わせて調べる実験の計画を立てる。	◆それぞれの金属と硫酸塩水溶液との組み合わせを考え、見通しをもって実験を計画している。 【思考・判断・表現】 〈記述分析〉
4	○計画した実験を行い、3種類の金属のイオンへのなりやすさについて考察する。 ・3種類の金属イオンへのなりやすさの違いについて表現する。また、探究の過程を振り返る。	◆3種類の金属と硫酸塩水溶液を用いた実験の結果の比較から、3種類の金属のイオンへのなりやすさを分析して推論している。 【思考・判断・表現】 〈記述分析〉
⋮	⋮	⋮
7	○電池の基本的な仕組みを理解する。 ・単元の学習を振り返り、まとめのテストで確認する。	◆電池の基本的な仕組みを理解している。 【知識・技能】 〈ペーパーテスト〉
8	○身の回りには様々な電池が利用されていることを理解する。 ・身の回りで化学変化を利用した電池が利用されていることを知る。合わせて、燃料電池についても知る。	◇身の回りには様々な電池が利用されていることを理解している。 【知識・技能】 〈記述分析〉

◆記録に残す評価

観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する評価

・記録に残す評価場面は毎時間設定する必要はなく、児童生徒全員の評価を記録に残す場面を精選することが必要です。単元や題材のまとまりの中で、評価規準に照らして、児童生徒の観点別状況を把握し、記録します。

◇指導に生かす評価

児童生徒一人一人の学習状況を把握し、児童生徒の学習の改善や教師の指導の改善につなげる評価

・児童生徒の学習状況を把握し、「おおむね満足できる」状況「B」以上になることを目指して必要な指導を行います。

参考資料 「学習指導案ハンドブック」
京都府総合教育センター（令和3年3月）

Name